

# 事業完了報告書（実行団体）

事業名:	生きる力を育む子どもの居場所づくり事業
資金分配団体名:	一般社団法人SINKa
実行団体名:	一般社団法人Kids Code Club
実施時期:	2021年7月～2022年2月
事業対象地域:	福岡県および全国
事業対象者:	ひとり親・経済的困窮世帯を含む、コロナ禍で影響を受けている子どもとその保護者

Version 3.2

日付: 2022年3月10日

## I. 事業概要

事業実施概要	<p>新型コロナによって、遊びや学びの機会、居場所や交流の場、人間関係を育む機会が減少するなどの影響を受けている親子に対して、新しい生活様式に合わせたオンラインのプログラミング学習コミュニティを構築して、人が繋がる居場所と活躍の場を提供した。</p> <p>子どもへ、楽しみながら取り組めるパソコンの操作練習やオンラインでのコミュニケーションの機会、21世紀スキルや創造力を育む機会を提供するとともに、保護者にも子どもと一緒に学べる機会や、プログラミング作品とおした親子の交流の機会を提供して、親子のITリテラシーを底上げした。弊団体以外の、様々なオンライン支援の機会に積極的に参加できるよう、ITへの苦手意識や不安の解消を目指して、様々なサポートを実施した。</p>
--------	--

## II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>参加費無料にすることと、子どものニーズに合わせた魅力的な学習メニューを用意することで参加のハードルを下げ、経済的な事情で習い事を諦めている層、IT活用に苦手意識をもつ、または、オンライン学習に慣れていない層にも機会を届けることができた。さらに、98%（回答数70）の保護者が、今後のオンラインの学習・体験の機会に対して積極的な姿勢を見せるなど、一定の成果を上げることができた。</p> <p>ひとり親支援の団体と連携しての機会提供も行ったが、PC・Wi-Fiの環境がない、保護者が家にいない、兄弟が多くて家では集中して学べない、といったケースも多く、支援団体の施設に集まってもらっての対面サポートから始めることになり、その分追加でリソースが必要となった。しかし、先に学び始めた子が他の子どもを手伝ったり、連携団体のスタッフの方もプログラミングを学んでサポートされたり、オンラインとのハイブリット開催にして現地スタッフを減らすなど、低コストで実施するためのヒントも見つかった。</p> <p>ひとり親・低所得世帯等の子どもたちにリーチしていくために、他の支援団体との「対面」での連携が不可欠であることを再確認したが、ただ機会提供するだけではリソースを割いてもらえず、団体側の理解も必要と痛感した。今後、成果指標づくりや、価値の言語化・可視化を行うことで、協力者の理解を深めることにつなげていきたい。</p>
-------------------	---

## III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	学習機会の不足/格差	福岡県で300世帯、全国で600世帯の親子（延べ数約1,800名）にプログラミング学習を通じた学びの機会、居場所や交流の場、活躍の機会、ITリテラシーの学習機会が提供されている。	・学習支援の開催数 ・参加者数	・放課後プログラミングクラブ：週2回（合計73回）開催、のべ1,500名参加 ・1分間プログラミング（親子向け）：5回開催、のべ150名参加 ・CS in English（英語で学ぶコンピューターサイエンス）：4回開催、のべ160名参加	・放課後プログラミングクラブ78回開催、のべ1854人が参加 ・親子で1分間プログラミング21回開催、のべ約300人が参加 ・英語でまなぶコンピューターサイエンス13回開催、のべ約370人が参加 ・福岡県で約300世帯、全国で約600世帯の親子（のべ約2,500名）が参加	コロナの状況に応じて参加者数が増減したが、総じて想定よりも多くの子どもを受け入れることができた。また、夏・秋・冬に発表会を実施することで、毎回のように参加するヘビーユーザーも増えることになった。1分間プログラミングとCSに関しては、自己学習の場と、キッズTA育成の場、パソコンの練習等を行う場所を増設するために、実施回数を増やした。
子ども・学生	居場所の不足	福岡県で300世帯、全国で600世帯の親子（延べ数約1,800名）にプログラミング学習を通じた学びの機会、居場所や交流の場、活躍の機会、ITリテラシーの学習機会が提供されている。	・参加者の態度変容	・ITへの苦手意識や不安を解消し、様々なオンライン支援の機会にも積極的に参加できるようになっている	98%（回答数73）の保護者が、今後のオンラインの学習・体験の機会に対して積極的な姿勢を見せた、他	アンケートの他、特に態度変容が起こった4名に対して、インタビューを実施。詳細は別添の資料（インタビュー結果の報告書、アンケート結果の報告書）をご確認ください。

## IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）\*

事業実施以降に目標とする状況	福岡県で300世帯、全国で600世帯の親子に、プログラミング学習を通じた学びの機会と、居場所、交流、活躍の機会が継続的に確保され、孤立が回避され、子どもの自己肯定感が向上している状態。また、親子がITリテラシーを身につけ、ITへの苦手意識や不安を解消し、引き続き開催するKids Code Clubの活動だけでなく、様々なオンライン支援の機会にも積極的に参加できるようになっている状態。
考察等	上記のような機会が継続的に確保されるためには、まず子ども自身のニーズにあったメニューの提供と、安定した子ども・保護者の成長パフォーマンスを上げ続けるための再現性が必要となるため、事業のコアバリューの確立と、それに合わせたスタッフの採用・育成も重要となってくると思われる。今回実施した成果指標の設定や調査方法を引き続きアップデートしながら、同時に団体の基盤を整えていきたい。

## V. 活動

活動	進捗	概要
①放課後プログラミングクラブ	計画通り	78回開催、のべ1854人が参加。1,800近いプログラミング作品が生み出された。長期で作品をつくって発表する夏・秋・冬まつりを開催、48名が発表。ゲスト講師として、音楽家、英語ネイティブのエンジニア、高校生や小学生講師などを招待したり、神奈川県ของเกมコンテストの審査員を子どもにお願いするなど、多様な体験を提供。ITリテラシーのクイズ大会は時間が足りず運営が困難になったため不定期開催に変更。より丁寧なサポート、安全確認、保護者の帰宅時間と合わない課題を解決するために、11月より入会時に全員30分のオリエンテーションを実施した。
②親子で1分間プログラミング	計画通り	本格的なテキストプログラミングを親子で学ぶ1～1.5ヶ月の長期イベントを2回開催。メインイベントとパソコン練習会・相談会・子どもTA向け研修会を計21回実施し、のべ300名が参加。期間中はオンライン学習ツールを使って、分からないところの質問や発表などを随時行える状態にしており、244回投稿された。子どもにTAとして当イベントで活躍してもらう機会をつくり募集したところ、18名が立候補。大人スタッフの代わりとなって、子どもたちのサポートを行い、親子同士の活躍・交流の機会が生まれた。
③英語でまなぶコンピューターサイエンス	計画通り	シアトルIT企業のエンジニアから英語でコンピューターサイエンスを学ぶイベント。メインイベントを4回、パソコン練習会を4回、自習会を5回開催し、のべ約370名が参加。シアトル・熊本のNPO、企業等と連携し、のべ約80名のボランティアスタッフとともに実施。①の機会に慣れたあとに、少しハードルの高い③に挑戦するというケースや、③でコミュニティに入ってきた子どもが日常的に学ぶために①に参加する、というケースもよく見られた。
④プログラミング学習アプリ、子ども向け作品サイトの提供	計画通り	放課後プログラミングクラブやイベントがない日や、参加できない子どもも自己学習できるよう、プログラミング学習アプリを提供。利用者数は22万人を突破。子ども向け作品サイトはβ版を10月に公開したあと、子どもたちに使い勝手や欲しい機能などをヒアリング、12月に正式版として公開、①の夏・秋・冬まつりの作品を掲載中。子どもからリクエストがあった際に、誰でも掲載できるよう、リニューアルが完了した。
⑤PC操作やプログラミング学習などITリテラシーに関するチャット相談受付	計画通り	自己学習中に分からないことがあった時や、PC操作、設定、学び方などで悩んだ際に、LINEで、保護者や子どもからの相談を受付。やりとり数は1000件以上。

## VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>当事業で見た、PC・Wi-Fiなどの環境がないご家庭の課題を解決するため、2021年新型コロナウイルス対応支援助成に申請し、採択され、2022年1月より、本件で連携したひとり親支援団体を通じて、ひとり親世帯・低所得世帯へのPC・Wi-Fiの無償貸与事業を開始している。</p> <p>また、8ヶ月の事業期間の中で、発言や反応をせずスタッフの対応を待っていた子どもが、次第に質問や発表をするようになり、さらに成長した子どもは、他の参加者の状態を気かけたり、質問に答えるなど、共同体の一員として他者をサポートしたり、貢献しようとする行動が見られた。これによって、子どものサポートや教材開発の面でスタッフの負担が減ると同時に、活躍や交流の場作りが促進された。今後は、このような「キッズTA」と呼ばれる子どもスタッフを育成していくことで、持続可能なコミュニティづくりへとつなげていきたい。</p>
---------------------	---

## VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>上記のような成長を見せないまま離脱してしまうケースもあるため、今後はレポート率など子どもの行動をトラッキングできるシステムを構築し、スタッフの声かけや環境づくりにおいて、ベストプラクティスを共有できる仕組みが必要と考えている。特に、ITやコミュニケーションが苦手な子どもほど離脱が起きやすいと予想されるため、初心者向けの施策とそれを行うためのスタッフ増員が必要。</p> <p>当初無償のボランティアを活用する方向で考えていたが、安定したリソースの確保や、参加者へのサポートの質を高めるためにも、無償ではコントロールが難しいことが分かり、数を減らして有償のボランティアを中心にチームを構成することになった。しかし、スケールしていくためにもボランティアの活用は避けられず、今後は再度、ボランティアの採用と育成に力を入れ、再現性と拡張性を高めていきたい。</p>
-----------	--

## VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
国内外のNPO法人、大学、行政、企業	イベント開催、教材開発、広報、ボランティア派遣において連携。3月以降も引き続き連携を継続することで合意した。
ひとり親支援団体	ひとり親・低所得世帯の子どもたちへ5回、のべ26名へ対面でプログラミング体験イベントを実施。3月以降も引き続き連携を継続することで合意した。
福岡エリアの教育委員会	福岡エリアの教育委員会の後援をもらってチラシ等を配布する予定だったが、応募者が殺到する可能性があったため、当初計画していた事業のボリュームが増えたこともあり、リソース不足を避けるために、今回は実施しなかった。

## IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	3,493,400	3,493,400	100.0%
	管理的経費	400,000	400,000	100.0%
合計		3,893,400	3,893,400	100.0%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	2021年10月 西日本新聞（飯塚市鎮西中学校でのプログラミング授業の紹介） 2021年10月 テラコヤプラス（英語でまなぶコンピュータ・サイエンスの取り組み紹介） <a href="https://terakoya.ameba.jp/a000001615/">https://terakoya.ameba.jp/a000001615/</a> 2021年11月 福岡小学生新聞（11万部発行、福岡子ども若者困窮者応援笑顔創造事業の紹介）
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	放プロスタジオ（子どもの作品共有サイト） <a href="https://studio.kidscodeclub.jp/">https://studio.kidscodeclub.jp/</a> Webサイト・各種SNSでの告知 Website <a href="https://kidscodeclub.jp/">https://kidscodeclub.jp/</a> Facebook <a href="https://www.facebook.com/kidscodeclubjp">https://www.facebook.com/kidscodeclubjp</a> Twitter <a href="https://twitter.com/kidscodeclubjp">https://twitter.com/kidscodeclubjp</a> Instagram <a href="https://www.instagram.com/kidscodeclubjp/">https://www.instagram.com/kidscodeclubjp/</a> LINE <a href="https://line.me/R/ti/p/%40hxs5309k">https://line.me/R/ti/p/%40hxs5309k</a>
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	WEBサイト等に掲載
4.報告書等	インタビュー結果の報告書 <a href="https://1drv.ms/b/s!AjPEPS4j0gx_j3li0g3cxt9Xrk1v?e=nzbATK">https://1drv.ms/b/s!AjPEPS4j0gx_j3li0g3cxt9Xrk1v?e=nzbATK</a> アンケート結果の報告書 <a href="https://1drv.ms/b/s!AjPEPS4j0gx_j3q_Wi1Le4AoXMmZ?e=XvVWxz">https://1drv.ms/b/s!AjPEPS4j0gx_j3q_Wi1Le4AoXMmZ?e=XvVWxz</a>

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更があり報告済	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	実施予定はない（エラーが出ていて選択できませんのでこちらに記入します）
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	